

長 蓮 寺 報

NO.3 (平成10. 11. 30)

末法の時代

寅年も、いよいよ後一ヶ月になりました。

ここ数年、サリン事件や青少年の凶悪事件が多発し、あまり良いニュースが無かったので、年の初めに「幸せな年をトラしてください。」(^^ゞ) とお願いしたのですが、皆さん如何だったでしょうか。皆さんそれぞれ一生懸命一年を過ごされたとは思いますが、意外と今年もあまり良い年とはいえませんでした。

和歌山のヒ素混入事件やそれに影響された各事件、経済界では潰れるはずがないと言われた銀行が倒産を始め、景気の低迷化がまだ続いております。

来年には子供と老人に商品券という話しですが、果たしてこれで好景気になるのでしょうか。なんか返って滑稽な気がします。

天気も異常気象続きで人間が出すCO₂でオゾン層が壊されているため。オーストラリア上空ではぽっかり穴をあけた状態とか。

やはり末法なのか。と つくづく感じる次第です。

日蓮聖人はお釈迦様が亡くなり五百年は正法の時代、その後五百年は像法の時代、それより後は末法の時代と位置づけられ、末法の時代では仏教は段々受け入れられなくなり、大変な時代がくるとされました。

確かに科学は発達し、色々なことが可能になりましたが反面人間の心がとっても寂しくなった様な気がします。

昔は、理由無くてもできたことが、今では理由がないと出来ない。

ご先祖様を大切に・自分がいるのは色々な人がいて初めてという感謝の精神、つまり仏教の教えが段々うすれて、自分・お金中心になってきているような気がします。

先日、あまりに今の世の中を嘆いている方がいらっしゃいましたので

「日蓮聖人はこの末法に時代を乗り切るためには『ただ南無妙法蓮華經と唱えなさい。』とお説きになっています。

「不景気だ。」「政府は何を考えているんだ。」と嘆いてばかりいるならお寺へ来て太鼓を元気良く叩き、大声でお経を読んでみませんか。すっきりしますよ。」とお話しいたしました。

皆さんも毎月7日にはお経の練習会をやっておりますのでお寺へ来て大きい声でお経をあげて不景気風を追い払いませんか。

皆様にとって平成十一年が幸多き年になりますように。

合掌

平成11年 年忌表

| | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一周忌 | 平成10年 | 十七回忌 | 昭和58年 | 三十七回忌 | 昭和38年 |
| 三回忌 | 平成9年 | 二十三回忌 | 昭和52年 | 四十三回忌 | 昭和32年 |
| 七回忌 | 平成5年 | 二十七回忌 | 昭和48年 | 四十七回忌 | 昭和28年 |
| 十三回忌 | 昭和62年 | 三十三回忌 | 昭和42年 | 五十回忌 | 昭和25年 |

長蓮寺の基礎知識Q&A（葬儀編）

人を送るとはとても辛いことです。

散る桜 残る桜も散る桜

この句は江戸時代の俳人 松尾芭蕉が臨終の床につき、上の句（散る桜）と読みましたがなかなか下の句が出てきません。その様子を見ていた弟子が、師匠の手元から筆と短冊を借り受け、下の句（残る桜も散る桜）を読みますと芭蕉は静かに旅立たれました。このように葬儀とは送る側と送られる側とで改めて大きな結びつきが生まれ、また一大事でもあります。

ただ、今日の葬儀を見ていると昔ながらの家族・親族・近所中心の葬儀から葬儀屋さん中心に、という風潮に変わりつつあり、少しぐらひは葬儀の心がけを知識として知っていただきたいと思ひます。

Q：枕経について

人が亡くなると、菩提寺の住職をお呼びしてお経を読んでもいただくことを枕経と言ひますが、枕経とは本来は亡くなる直前から臨終後まで読むお経のこと（臨終経とも言う）でした。

現に、日蓮聖人は多くの弟子の読経の中、御遷化（亡くなる）されたと言ひられています。昔は、臨終に際して心安らかに息をひきとって頂くために、仏教の教えを説き聞かせたのですが、段々時代の流れの中で変化していったようです。ただ、現在でもチベットでは昔ながらの枕経があるようです。

Q：枕飾りについて教えて下さい。

御遺体が御自宅に戻られましたら、頭を北向きにして（真宗は西向きの様ですが）

床の間に御本尊（図①）をおかけして、お寝かせいたします。

この北枕はお釈迦様がお亡くなりになったときの姿

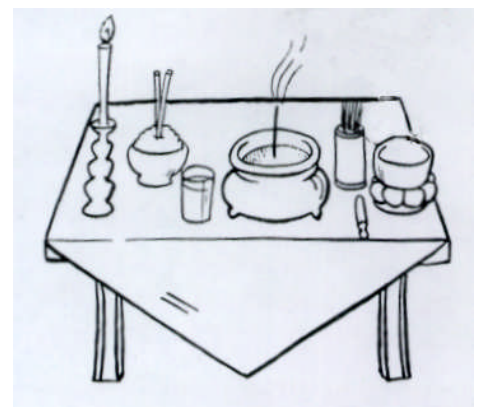
「その時世尊は、右脇にして伏す。頭を北方に枕し、足は南方を指す。」という故事に習ったものです。

また、枕元には小さな机を起し、その上に香炉（線香立て）、燭台（ろうそく立て）、一膳飯（個人が使用していた御飯茶碗に山盛り御飯に箸をたてる）、お茶かお水をお飾りします。（図②）

葬儀終了後、その御飯茶碗や湯飲み茶碗は「もうこの世には戻れませんよ」という意味で割ってしまいます。



図① 御本尊



（図②） 枕飾り

Q：納棺・湯灌（ゆかん）について

御遺体を棺に納める前に湯水で体を清め、旅装束の衣装に着替えていただくことを湯灌と言います。古来より、人間が亡くなると「黄泉（よみじ）の旅に行く」と言うように旅に出かけると言う考えがあり、旅支度（頭巾・上帯・手っ甲・脚絆・足袋）等をお着せいたします。

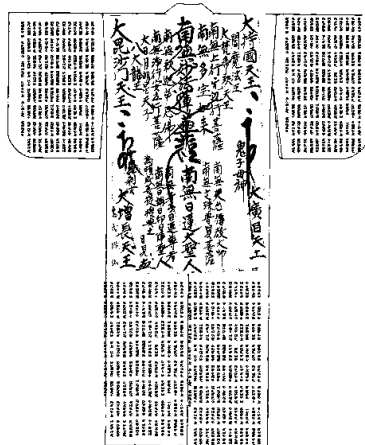
Q：経帷子（きょうかたびら）について

私達の法華宗には亡くなられた方にお経の書いた白木綿の衣（帷子）をお着せする習慣があります。

「有為の凡夫に無為の聖衣をつけぬれば三途の川に恐れ山にはばかりなし」

と日蓮聖人がおっしゃっているように亡くなられた方にとのです。

事前に住職に言ってお経を書いていただけておき、いざ親族が一針一針心を込めて縫って帷子を完成させ、お着せするものです。



なく八難死出の

って最高の衣な

亡くなられると



精進料理

御会式に参詣されたある檀家さんが言われました。

「どこの御会式行っても精進料理、そう言えば何で精進というの。」

『精進』とは「一生懸命努める・努力」という意味です。

ですから、「精進料理」とは「一生懸命に作った料理」の事なのですが、何時から、肉魚を使わない料理の意味になったのでしょうか？

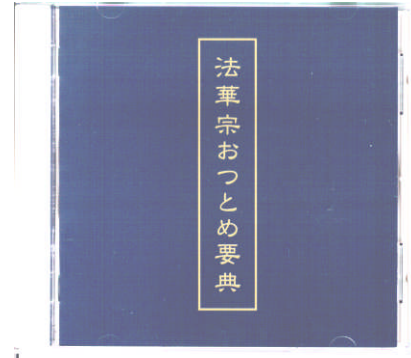
仏教では六つの修行を説いています。その四つ目が「精進」であり、何事にも一生懸命に励む。ということなのですが、その修行に入る前に身を清める意味で酒肉や臭みのある物を遠ざけ、沐浴して体を清めるという「潔斎」の意味が一緒になって、今の「精進」の意味になったと考えられています。

また、仏教には精進日と言って坊さんと一般の人が集まって信仰心を確認し合う日（法華宗では祠堂法要や御会式など）が設けられていますが、その日には仏教の戒律を再確認する意味で、肉魚類は一切口にしない。その事から「精進」の意味が来ているという説もあります。



◎お経のCD発売

法華宗のお経のCDが発売されました。
おつとめ要典のお経そのまま収録されています。
御自宅でお経を勉強されたい方、
御希望の方御座いましたらお寺まで
ご連絡ください。
尚、一部 二千円になっております。



◎来年の檀信徒旅行について

来年（平成十一年）春に富山の3か寺合同（本寿寺・本陽寺・長蓮寺）で
関西教区の「万人講」（於 京都の別院本禅寺）に参拝に行く計画を立てております。
京都の万人講は北陸の題目講と並び称される行事で毎年沢山の方がお参りに訪れます
また、丁度その頃、京都では都踊りがあり併せて見る予定です。
また詳細は、後日お知らせ致しますので 沢山の参加をお待ちしております。

◎平成十一年新年会のお知らせ

1月7日午前11時より**新年会**を開きます。
ご希望の方は別紙の申込用紙にご記入の上
お申し込み下さい。
カラオケなども用意しております。
皆さんの御参加をお待ちしております。

また、毎月7日午後1時より**お経の練習会**を
ひらいております。参加費無料になっており
ますので気軽にお越し下さい。

